

令和6年度 授業改善推進プラン（小学校学級担任用）

福生市立福生第一小学校 第4学年1組

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	96.3%	93.2%
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある	77.8%	76.7%
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	96.3%	90.8%
	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある	77.8%	59.8%
		26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	81.5%	83.4%
	他者との協働	104 わたしは、友だちの心をきずつけることを言ったり、からかったりしていない	81.5%	81.4%
	学力と関係が深い質問	31 授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方も一緒に理解しようとしている	74.1%	69.8%
		36 目標に向けて、ふだんからこつこつ学習している	74.1%	65.7%
		45 自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる	81.5%	74.6%
領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題			
国語	言葉・情報・言語文化	▲全国平均正答率を18.5ポイント下回り、(漢字の書き[こうえんで遊ぶ]設問に課題がある。		
	話すこと・聞くこと	▲全国平均正答率を13.7ポイント下回り、(山川さんの発表に対する質問の意図を選ぶ)設問に課題がある。		
	書くこと	▲全国平均正答率を12.2ポイント下回り、(登場人物の心情をまとめた文の空欄に入る言葉を書く)設問に課題がある。		
	読むこと	▲全国平均正答率を8.1ポイント下回り、(詳しく説明している一続きの段落を書く)設問に課題がある。		
算数	数と計算	▲全国平均正答率を20.4ポイント下回り、(場面を式に表し答えを求める)設問に課題がある。		
	図形	▲全国平均正答率を6.7ポイント下回り、(同じ大きさの円が並ぶときの直線アイの長さを選ぶ)設問に課題がある。		
	変化と関係	▲全国平均正答率を6.6ポイント下回り、(適する単位を選ぶ)設問に課題がある。		
	データの活用	▲全国平均正答率を9.8ポイント下回り、(棒グラフから2つの項目の人数の差で正しいものを選ぶ)設問に課題がある。		
2 児童の実態		3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組		
<p>・国語の学習では、すすんで学習に取り組む児童が多く、日頃の漢字練習や小テストに粘り強く取り組むことができてきている。しかし、「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率が低く、課題があることが明らかになった。普段の様子から、静かに話を聞いているものの話の内容や意図を捉えていない児童が多くいることも現状として挙げられる。</p> <p>・算数の学習では、課題に対して「どのようにしたら解けるだろう」とすすんで学習に取り組もうとする姿勢が少しずつ身に付いてきた。課題である「数と式」の領域は、一斉指導で解法を一つ一つ確認することで、図をかいて自力解決できるようになった。しかし、算数の学習自体に対して抵抗感のある児童に対する指導、支援は工夫する必要がある。</p>		<p>・国語の漢字の学習に対する取組は、継続して称賛する。今後は日頃の日記の宿題で習った漢字をすすんで使うことや新出漢字の学習の際に読み方や漢字の使い方に関する指導を行う。「聞くこと」の力を定着させるために「聞くときの姿勢」を日常の学校生活の中で意識させる。また、「話すこと」の力を伸ばすためには、ペア学習やグループ学習で「相手に最も伝えたいことは何か」を意識させる。また、話の中心や話す場面を意識して言葉の抑揚や強弱、間の取り方など指導していく。</p> <p>・算数の学習では、友達同士で課題に取り組んだり問題の解き方を共有したりする活動を取り入れる。既習事項を生かすことで問題を解くことができるという達成感を味わわせる。算数の学習に抵抗感のある児童に対しては、つまづきを軽減させるために復習をしつつ、図や具体物を活用して学習することの楽しさを味わわせる。</p>		
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況		令和6年8月末時点で完了している児童	88.8%	(24人/27人中)
確認テストの実施状況		令和6年8月末時点で完了している児童	88.8%	(24人/27人中)